

## 国内トラブル情報

資料12-8

平成26年11月7日～平成27年1月13日の期間において、JANSIが水平展開要と判断した案件等

番号	件名	事象の概要	事業者の対応
B2015-12-01	浜岡原子力発電所3号機タービン建屋への雨水の浸入について No.12122 発生日:2014年 10月 6日	3号機タービン建屋地下1階通路(管理区域内)において、水溜まりが発見された。現場確認により、タービン建屋の外側にある屋外地下ダクト内に雨水が溜まり、配管貫通部より建屋内に入り込んだものと推定された(合計で約8m <sup>3</sup> )。 ① 屋外地下ダクト内に雨水が溜まった原因 当該ダクト内にある排水ポンプによる排水が適切に行われず、排水升に流れ込む雨水が排水ラインを通じて逆流したため、ダクト内に雨水が溜まったものと推定された。 排水が適切に行われなかった原因は、ポンプを自動起動させる電極式センサにビニール片等のゴミが付着したことにより、センサが検知せず、排水ポンプが一時的に動作しなかったものと推定された。 ② 配管貫通部からのタービン建屋への雨水の浸入原因 この配管貫通部は、建屋の壁を貫通している配管にブーツラバーを取り付けることにより建屋の内外を区画している。当該ダクト内に雨水が溜まったことにより、雨水の水圧でブーツラバーがずれ隙間ができたことから、雨水が浸入したものと推定された。	屋外地下ダクト内に雨水が溜まらないようにするため、排水ポンプをビニール片等の影響を受けにくいフロート式センサで起動するポンプに取り替えることとした。 加えて、排水ポンプが停止した場合にも、雨水が排水ラインから当該ダクト内に逆流しないよう、逆止弁を取り付けることとした。 また、ブーツラバーがずれた配管貫通部について、ずれの修正を行う。 当該箇所の対策のほか、同様の屋外地下ダクトについても、配管等貫通部の施工状態及び排水ポンプの排水状況に問題のないことを確認することとした。

出典: NUCIAより抜粋